

ぐんま緑の県民基金事業

～ みんなの森をみんなで守ろう ～

平成28年度

実施報告書



平成29年8月
群馬県

も く じ

● はじめに	…1
● 目指すべき目標	…1
● 期間	…1
● 平成28年度ぐんま緑の県民基金事業の総括	…2
● 平成28年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要	…3
● I 水源地域等の森林整備	…4
● II 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進	…9
● III 市町村提案型事業	…11
● IV 制度運営	…15
● V ぐんま緑の県民税評価検証委員名簿	…18

○ はじめに

群馬県は、県土の3分の2を森林が占めています。

豊かな水を育み、また災害を防止するなど、私たちの暮らしを支え、多くの恵みをもたらす森林は、県民共有の財産です。

県では、この大切な森林を守り、育て、次世代に引き継いでいくため、県民税均等割の超過課税として「ぐんま緑の県民税」を平成26年4月から導入し、様々な施策に取り組んでいます。

○ 目指すべき目標

木材価格の低迷や山村地域の過疎化・高齢化などにより放置され、荒廃が進む森林の整備を進めるため、また、森林を取り巻く新たな課題に対応するため、次の目標に向けて施策を進めます。

● 豊かな水を育み、災害に強い森林づくり

● 里山・平地林等の森林環境を改善し、
安心・安全な生活環境を創造

○ 期間

- 事業期間 5年間(平成26年度から)
- 課税期間 5年間(個人平成26年度課税(平成25年所得分から))
(法人平成26年4月1日以降に終了する事業年度分から)

平成28年度ぐんま緑の県民基金事業 総括

ぐんま緑の県民税評価検証委員会は、税の使途の透明性・公平性を確保し、事業内容の検討、実績評価・効果検証を行うため、平成26年に設置され、平成26年度に3回、平成27年度に3回、平成28年度に2回、計8回の委員会を開催し、ぐんま緑の県民基金事業の執行状況や効果について検証・評価を行ってきました。

□ ぐんま緑の県民税評価検証委員会の総括意見

・ぐんま緑の県民税が導入され、3年が経過した。導入初年度は、市町村、県民への普及啓発が不足していたこともあり、十分な成果が得られたとは言えなかったが、2年目からは市町村、県民への浸透の効果が現れて、3年目に入ると浸透度が更に増して、着実に県全体に広がりを見せてようになってきたことは高く評価される。

・条件不利地の森林整備事業は、森林所有者の所在確認や承諾、境界線の確定などに時間を要しており、進捗状況は高いとは言えないものの、本基金によって初めて手がけられた事業であり、地域の森林の状況を熟知している県だからこそ可能となる事業であると評価される。今後は、自治体、森林組合の一層の協力を得て、作業効率を高めて、進捗率を高めること。

・森林ボランティア活動については、普及啓発の成果が、森林ボランティア団体数、会員数に現れており、着実に成果が積み重ねられており、高く評価できる。インタープリターの育成も順調に推移しており、園児や児童生徒、県民全体への森林環境教育が広がっている。このことは、ぐんま緑の県民税の意義についても理解を深めることに結びつき、森林県である本県において官民一体となった分権型地域づくりの一つのモデルとして高く評価できる。今後は、さらに県民への普及啓発を進め、全县に広がっていくことに期待する。

・市町村提案型事業については、平成26年度の29市町村117事業から、平成27年度は31市町村208事業まで増加し、平成28年度は35全市町村266事業まで増加し、県下全市町村で取り組まれるようになったことは高く評価できる。これは、本基金への自治体、住民への浸透度が年々高まってきたからであり、県民参加によって里山整備が進められた。また、希少種の保護など、県民によって環境保全も図られるようになり、後世に群馬の自然環境を伝えることができることも高く評価される。こうした地域の生活環境の改善は、本税を導入したからこそ進められるようになり、ぐんま緑の県民税の導入趣旨に適ったものと評価できる。ただし、事業の継続性に課題が残っており、市町村提案型事業においてB評価が付けられた理由の多くは、この点にあるからでもある。里山の整備や自然環境の保全事業が一過性事業とならないために、県民税の継続を検討し、本事業の継続性を担保することが重要となっている点には留意すること。

・制度運営については、順調に進んでいると認められるが、効果検証をさらに進めるためには、現地調査や実際に事業に参画している県民へのヒアリングなどを行うこと。

・以上より、森林整備事業については進捗率が低いものの、その理由は概ね想定されていたことであることを配慮すると、本基金は概ね当初の計画通りに推進されており、基金の使途についても妥当であると認められる。

・ただし、諸事業が一過性の事業とならないようにすることが自治体、県民からも求められており、現状の問題点や課題を整理し、事業の継続性、改善の方向を検討すること。

平成29年7月

平成28年度ぐんま緑の県民基金事業の実施概要

財源

【収入】基金(基金残高・税込、寄附金、運用益、諸収入)

1,366,670千円

(内訳) ・基金残高535,523千円 ・税込830,327千円
 ・寄附金450千円 ・運用益195千円 ・諸収入175千円

※端数処理のため合計値は合致しません。

使い道

【支出】ぐんま緑の県民基金事業 958,475千円

※繰越として実施する事業 327,282千円

I 水源地域等の森林整備 709,717千円 【林政課】

(内訳) ・平成27年度繰越事業404,293千円 ・平成28年度事業305,425千円
 ※平成28年度繰越事業294,820千円

II 森林ボランティア活動・森林環境教育の推進 12,937千円 【緑化推進課】

III 市町村提案型事業 232,872千円 【林政課】

(内訳) ・平成27年度繰越事業34,211千円 ・平成28年度事業198,661千円
 ※平成28年度繰越事業32,462千円

IV 制度運営(普及啓発、評価検証) 2,948千円 【林政課・林業試験場】

平成28年度総事業費に占める各事業の割合

